授業科目名： 球技演習	教員の免許状取得のめの 選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名： 髙木由起子・林　直樹 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校保健体育）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		

「学位授与の方針」との関係

球技は「競い合い」を基本としたスポーツ活動である。競い合いが苦手な生徒たちが存在する中、競い「合う」の意味は「共生」の理念と共通するものであるということを理解する。

授業の到達目標及びテーマ

（１）球技種目の教材の作り方を修得する。
（２）球技種目の指導法を「主体的・対話的で深い学び」を通して修得する。
（３）球技種目の教材づくりや指導法の振り返りを通して、球技の楽しさを伝える力を身に付ける

授業の概要

中学校及び高等学校体育における球技は、「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」に分類される。個人対個人や集団対集団で勝敗を競い合うこととされている。授業においては、この競い合いを通して「①身体や道具を合目的的に操作すること」「②ゲームの中での攻防を合理的に展開すること」を生徒が達成できることを目標とする。また、「主体的・対話的で深い学び」を促すように指導することが教員には求められている。加えて、上記①②のような技術・技能の上達だけではなく、その活動を通して、「③フェアプレイなどの態度」や「④ルールなどの正しい知識」、「⑤安全管理などの正しい思考・判断」も合わせて指導していけることが教員には望まれている。つまり、体育においての「球技」の学びは各種目の技能修得を目指すことは出発点に過ぎず、逆に技能修得のみに終始してしまうことは本来の目的を欠くことになる。

本授業においては、ゴール型はバスケットボールとして、ネット型はバドミントンとして、ベースボール型はソフトボールとして球技教材を扱い、上記の①～⑤について包括した指導法と教材づくりを学ぶ。また、「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する」ことについて学び続ける姿勢を養うことを目標とする。

授業計画
第１回：オリエンテーション
第２回：技能課題の探究（ゴール型、ネット型、ベースボール型の特質を踏まえて）
第３回：知的課題の探求（ゴール型、ネット型、ベースボール型の特質を踏まえて）
第４回：チームワーク・コミュニケーション課題の探求
第５回：フェアプレイの態度の探求
第６回：教材と用具の活用方法の工夫とルールの工夫
第７回：指導技術の探求（ゴール型、ネット型、ベースボール型の特質を踏まえて）
第８回：グループによるワークの創造と発表
第９回：指導案作成（１）　指導案の構成
第１０回：指導案作成（２）　指導案の作成
第１１回：指導案作成（３）　指導案の振り返り
第１２回：模擬授業（１）　模擬授業
第１３回：模擬授業（２）　模擬授業の振り返り
第１４回：指導案の改善と発表
第１５回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容
　全 15 回すべての内容を行う。指導案と模擬授業を完成させる。
（１）ネット型のバドミントンの特質と学習効果について理解する。
（２）ゴール型のバスケットボールの特質と学習効果について理解する。

教科書
岡出 美則・友添 秀則・岩田 靖『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店　2021 年

参考文献
下記参考文献から、プリントを作成して適宜配布する。
（１）文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編』　東山書房
（２）文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編』
　　東山書房
（３）体育授業研究会『よい体育授業を求めて』大修館書店　2015 年
（４）岩田　靖『ボール運動の教材を創る』大修館書店　2016 年
（５）岩田　靖『体育の教材を創る』大修館書店　2012 年

学生に対する評価
　スクーリング評価（２５％）レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。